

中齋塾 東京フォーラム
平成 30 年度 第 2 回講話

平成 30 年 2 月 10 日
於 湯島聖堂

おはようございます。前回いろいろ提案があり幹事会の中で時事評論を先にとという話が出ました。時事評論をしようと思っているうちに時間終了となるから、実験で時事評論を先に行ってみようということです。最初に論語の視点で、二番目は時事評論です。論語の話しながら時事評論を意識して入れていく。それで時事評論を話すところは、ちょっと大事ですよと言ったときには深く突っ込んでみる。そういう進めかたをさせていただきたいと思っております。

レジュメ通りに喋るのは、けっこう大変です。論語をまずご覧ください。そこからまいります。

衛靈公 十五

【四】子曰く、無為にして治まる者は、其れ舜なるか。夫れ何をか為さんや。己を恭しくして、正しく南面するのみ。

【五】子張行われんことを問う。子曰く、言忠信に、行篤敬ならば、蛮貊の邦と雖も行われん。言忠信ならず、行篤敬ならずんば、州里と雖も行われんや。立てば則ち其の前に參るを見、輿に在れば則ち其の衡に倚るを見る。夫れ然る後行われんと。子張諸を紳に書す。

素読論語ようございました。落ちついて淡々と読まれたのがよろしいですね。聞く人に安心感を与えるから、良かったと思います。読みながら、ちょっと違うかなと、ちらっとよぎったでしょう。でも気にしないで淡々と読めばよい。知っている人はちょっと読みかた違えたけれども…気にしないですね。いわゆる学者だと読みかたが違うと言いますが、だいたい雰囲気は伝われば良いと思います。それをさらに真面目な漢字専門の人達からすると、今の読みかたはいつの時代から、どう読んだ表現かであって、あながち間違いとはいえないとなります。読みかたというのは時代につれて変わります。では正しいのかといえ、正しいともいえない。一般の人には何だかよくわからないようなことを専門家はしています。そういう学者の説に従っても、多少間違っても、多少間違っても知れませんが、それでもどうってこ

とないとお考えください。論語を読むときに、こういうことを意識するといいいですね。

「子曰く、無為にして治まる者は」ここで組織のトップに立っている人だったら、はて私は南面している人間であろうかと思えということです。何もしなくても周りが色々な仕事をしてくれる。私は身を正しくして、しっかり座っておれば周りで一生懸命に動いてくれている。私は何もしないでただ座っておればよいという存在になっているだろうか。言いかたを変えると、私がいることによって会社や組織がまわっているか。周りに安心感を与え皆が生き生きと働いている実感を持っていけば「無為にして治まる者は」に当てはまる。これがもうちょっと先にいって、会社や組織の中の人間だけではなく、まるで違う関係のない人達も、あの人の言うことなら、と聞くことが多々あります。これはその人が南面に座っておられることを意味していると思います。

家庭に帰って亭主が何もしないでぱっと座る。それでも奥さんが氣を遣って、色々やってくれるような夫婦関係だなと思えば、無為にして治まっておるとお考えいただければよいでしょう。

次の「子張 行われんことを問う」孔子が何歳ぐらいの感じがしますか？50代・60代・70代。

宮田会員—60代です。

当たりです。孔子が63歳で子張が15歳の時の問答です。最初に読むときに、それぞれの年齢を調べられるとよい。そうすると雰囲気として孔子が60代で子張は本当に若い。若者というよりは、まだ少年から青年になりかけた人間ですから、行動や言行が定まっていない。10代ですから当たり前ですね。ご年配の先生と若い人との問答で、先生からみると、やはり立っているけれども言葉と行いがまだまだ不安。だからこの子には色々と指導しながらの問答だ、ということを入れたら予習をしていただくと、言いかたが少し変わってきます。読んでいる時に、孔子が言っている箇所は何となく重々しく読むことです。子張の場合は何となく若者・少年というような声色になってくる。ただし予習してこないとそう読めないなので、予習されるとよろしいと思います。

孔子が言うには「無為にして治まる者は」何もしないけれども、その組織はきちんと治まっている。「其れ舜なるか」堯帝からバトンタッチをされたのですけれども、たまたま先代がとても良い家臣を残してくれた。その家臣を上手に然るべきところに配置をしたので死後は何もしないようにもみえてもきちんと治まっている。

今日の新聞を見ましたら、冬季オリンピックは色鮮やかで凄いですね。各紙こうなのでしょう。これを眺めいていて、これだけ北朝鮮・北朝鮮と書いてある。首脳会談の要旨が四面、関連記事が二面に載っています。北朝鮮が非常に多い。この感覚でみますと、北朝

鮮・韓国は儒教の歴史が続いてきている。儒教が中心にあるはずですが、それで考えてみて「**無為にして治まる者は、其れ舜なるか**」北朝鮮でトップにいる者は何もしないでも、きちんと治まっているのかと読んだときに、正反対ではないか。アメリカに対しては、威嚇行動や、はったりばかりをしています。内部を治めるために身内を暗殺したり、家族や親戚一同を連れてきて並べて機銃掃射で公開処刑をする。無理やり国民の中からこれほど思う者を引きずりだして、すさまじい恐怖政治をしています。「**無為にして治まる者は**」と正反対のことを強調しています。「**其れ舜なるか**」これはバトンタッチにしても、初代二代三代と繋げて綺麗にバトンタッチしていますか？二代目が後を継ぐときに初代の暗殺をしているという話があります。三代目も同じ話です。ひるがえって日本で考えた場合に、昭和天皇を今上天皇が暗殺して天皇になったということが、仮に誰かが外国で言いだしても、日本人は誰もそんなことは信用しない。そんな馬鹿なと軽く一蹴するでしょう。でも北朝鮮だったら、あり得ると思う。それは何故なのか。

今日の新聞は、今日の論語と一対の物語を織りなしています。「**夫れ何をか為さんや**」舜は何をしたのだろうか。

「**己を恭しくして**」は今風に言えば、今の天皇陛下を考えればいいですね。自分をとても磨くように努力をしています。人格もさらに向上させるよう励んでおられる。それで身を慎んで身を律している。それから子供さん達のことを気にかけている。国民のことも気にかけて動きをする。一生懸命に考えて、練りに練った行動で膝をついてその目線で話をします。総理大臣が被災地に行くと上から目線で「大丈夫ですか」という。天皇皇后両陛下が行くと膝をついて問いかける。ほんのちょっとしたその動作、その動作ひとつでもまるで違う。「**正しく南面するのみ**」正しくて位についている。それで日本国の中心にいるということによい。仮に臣下が並んでいたら北面していて、天皇陛下は南面するという状況を想像すればよろしいと思います。それで北朝鮮はどうだろうか。アメリカや中国はどうでしょう。

北朝鮮の金正恩（キム・ジョンウン）の妹が長幼の序をしていない。90歳を過ぎた北朝鮮の代表が、かなり年下の、ただ血筋の妹さんが部屋に入ってくる時に代表が席を譲る動作をしている。本来は長幼の序でしたら若い女性が長老を立てるべきであろうと思うが、現実では逆だということです。それは恐怖心のなせる業かなと、どうしても思わざるをえません。90歳を過ぎて機銃掃射を浴びせられたらたまったものではないと、この文章から透けてみえます。

次に「**子張行われんことを問う**」子張という若者は自分が向上したいと思っている。でも仕えるのは、まだちょっと先だから実力を身につけたい。それでどういう行動がよろしいですかと聞いた。孔子は、子張という若者は才能たっぷりでも実力もある。ということでも少しそっくり返っていて行動態度が慎み深くなく偉そうにしている。俺が俺がと前に出てくる。だからちょっと叩かなければいけないなと思っていたのでしょ。孔子が言うには「**言 忠信**」言葉に真心を込めて行動が実直で慎み深くすれば、異民族の人達といえども、

お前の言うことは素直に聞くであろう。それが逆に言葉が不遜で行動が実直でなく慎み深くなければ**「州里と雖も行われんや」**州里は故郷と考えればいいです。州という言葉は二千五百家、里は二十五、二千五百人の家族が住んでいる家を州といい、二十五家を里という。それをひっくるめていったら、故郷という感覚でここは捉えなさいと学者の書物には書いてありますよね。予習してきた方は大体こういうのは見えているはずだから少し言います。

その次は**「立てば則ち其の前に参るを見」**まっすぐ正面に立って話をさせていただいています。今、肛門をきちんと閉めて立っております。でも、肛門を広げて肩の力を氣にしないで立つとこんな感じです。違いが分かりますか。そこまでしなくても背中を壁につけ腰をつけて、ふくらはぎ踵をつけて立つと身体で良い姿勢が分かります。これが正しい姿勢です。この姿勢で一步前に出て立てばよいと思ってください。今日は中村天風先生の本『哲人哲語』を持ってきました。よく読んでみてください。

「輿に在れば則ち其の衡に倚るを見る」輿に在ればというのは、馬車のお立ち台みたいなものです。馬車に立ったら、しっかり横木に掴まって立っておれということです。**「其の衡に」**衡というのは横木。自分がぐらぐらしないように掴まるものです。**「倚るを見る」**というのは、寄りかかっているのではなくて掴まっている。

「夫れ然る後行われんと。子張諸を紳に書す」努力をしていれば、後であなたは世に受け入れられる。子張はこれを聞いて一生懸命にメモをとった。紳は礼服用の服で前に帯が垂れている。垂れている帯を持ち上げて筆を出して書きとめた。けっこう大仰なことです。でも何となくわかりませんか。先生の話すことを必死になって書いた。

メモを取るといって、力道山と中内功（ダイエー創業者）さんが頭の中に浮かびます。力道山は晩年、実業家ですから、いたる所にメモ用紙と鉛筆をぶら下げて、思いついた時に何でも書くことを風呂の中でもどこでもしていた。最近は風呂の中で文字が書けるようになりましたが。それから中内功さんは、手帳に書くようなことでもなく、いっぱい書き込んでいたみたいです。更にメモを判読する専門の人がいたそうです。自分で書いたメモが分からないと困りますが、でもやっぱりメモは取るのがよい。メモをとった後には見直しをすることが必要であるといえます。

そのまま北朝鮮でいきましょうか。**「子張行われんことを問う」**亡くなってしまった初代に今の三代目が「私はどうやればいいでしょう？」と、聞いたと教えてください。髪形はお祖父さんの真似をした。体つきもお祖父さんの真似をして一所懸命に美味しい物をたらふく食べお腹も出っ張らせて、着ている物も真似をしました。あの世から三代目に対して、言葉に真心がこもっているように、思わせるように話しなさいと、言っているのではないかと勝手に想像しています。

孔子は言葉に真心を込めて話をしなさいといったけれども、北朝鮮の話で、人は流されやすいから、この人の言うことは真心がこもっていると相手に誤解させなさい。実直で慎み深くみえるようにしなさい。北朝鮮からみればアメリカは野蛮そのものです。野蛮極ま

りないと眺めて見ればよい。これから具体的な時事評論に入っていきます。

時事評論

今朝、新聞をみたら先ほど話したように、ほとんど北朝鮮の話ばかりでした。「平昌（ピョンチャン）オリンピック開幕」「慰安婦合意の履行要求」どの新聞も同じです。それで日本のことは「日銀総裁 黒田氏再任 最終調整」と少し書いてあります。

ふっと思ったのは、何で北朝鮮の宣伝ばかりしているのか。そして産経新聞はどうなっているのだろうかと思いました。他の新聞はどう思うのかと思ったら、産経新聞の批判が出ていました。

読売新聞（2月9日）で「産経新聞 県警の取材を怠る」とあります。産経新聞は8日朝刊に沖縄県で起きた交通事故で米兵が日本人を救出した報道について、きちんとした取材をしないで不確実な情報のまま沖縄県の新聞社を「報道機関を名乗る資格はない。日本人の恥だ」などと強く批判した。でも沖縄の新聞社は「救助の事実を確認できない」と否定しました。検証をした結果、産経新聞執行役員東京編集局長が「皆様に深くおわびします」という謝罪コメントを出しました。

慶応大学の教授は警察に取材をしないまま報道したことは、基本的な新聞記者としての調査を怠ったとの批判を免れない。特に批判記事を書くときは、より慎重な事実確認を求められると色々書いてありました。産経新聞を批判しているなと思いました。目に見えないところで新聞社同士、水面下で蹴飛ばしあっているという印象です。

新聞社は広告をたくさん出すところに弱いですね。広告がこれだけ出れば、この新聞社に対して強くいえる会社はどこだと、裏の背後関係が透けてみえると思います。そうすると新聞は墮落したなと思います。

北朝鮮をこれだけ出すでしょう。それで今度は慰安婦合意に対しての友好会議。私はこれを見て思うことは、慰安婦合意は、ひっくり返すだろうと思うから、合意した時に「不可逆的」日本語としておかしい文章が使われました。絶対ひっくり返しませんと約束をしたにもかかわらず、またひっくり返したと書いてあります。こういうものから全部透けてみえる。

ちょっとお聞きします。北朝鮮と韓国は将来統一されると思う方どれくらいおられますか。

有難うございます。3割ぐらい手が挙がりました。

今、手を挙げた方にお聞きします。北朝鮮が韓国を吸収するのか。それとも韓国が北朝鮮

を吸収するのか、どっちでしょう。

勝つのは単純な原理があつて、強烈に思っている人、強く思っている人です。思いの強い人が勝ちます。北朝鮮と韓国の間柄の人間のやることです。より強い思いをもっているのはどちらか。美味しい物ばかり食って、金も儲けている。我々はこんなに餓えて苦しんでいるのに、あいつらはけしからん。全部自分の配下にするんだと強く思っている人間が勝ちますよ。ほほ笑み外交で仲良くしましよとやっている人は取り込まれるに決まっている。

したがいまして、北朝鮮が韓国を吸収すると私は思っています。思うのは勝手ですから断言したってそうなるかは分からない。ならなかったら、どうしてならなかったかを考えればいい。

その他で、一面に出ていた「日銀総裁 黒田氏再任」とあります。マイナス金利政策明暗、日銀が導入して2年経ちました。これもまた言葉がころころ変わる。

新聞の見出しだけをみますと「遠い脱デフレ」、「銀行苦境設備投資」、「不動産活性化」よく言うと思っています。嘘八百というよりは綺麗な言葉で取り繕っている。例えば「不動産の活性化」で最近起きている話で、土地の専門家から聞きました。日本の国はあちこちで病んでいる。最近の不動産は処分したくとも処分ができない。自治体に寄付をしようと思っても寄付を受け付けてくれない。それで新しい商売が生まれて、だいぶ広がりだしているそうです。それは不動産に持参金をつけるというものです。「100万円の持参金をつけたら、この土地を引き取ってくれますか」といっても、「いやいや200万つけてくれたら引き取ります」ということで、塩漬けになって困っている地主から持参金を貰うことが目的で、持参金が高ければ引き取るという不動産業が発生して、それが合法だから手がつけられない。しかしこれほど不動産の価値を貶める新しいビジネスはないので怖いですねという話。それから「銀行苦境」確かに苦境でしょうけれども、この間おもしろいことがありました。ある頭取と健康寿命の話をしていましたら「資産寿命」という言葉が出てきました。お聞きをしたら、今までは資産の運用管理という言いかたをしていたものを、「いやいや、あなたのお持ちの資産は寿命があるというのをお考えになって早く処理しなさい」という類の話です。

新聞に色々と見出しが書いてありますが、今回申しあげたことは、全部よく読んでみると見出しと違うことがいっぱい書いてあります。だから見出しと違うところをよく見ていただくとういでしょう。

読売新聞2月10日「90歳長老 金与正（キム・ヨジョン）氏に席譲る」という見出しで、「金正恩（キム・ジョンウン）の実妹、金与正に北朝鮮の最高人民会議常任委員長・金永南（キム・ヨンナム）氏（90歳）が着席時にはイスを譲るそぶりを見せた。30歳前後の

与正氏に配慮する姿は金主席の血族の権威を見せつけた」という書きかたで書いてありましたが、この見出しが（読売新聞 2 月 10 日）「北朝鮮の参加は韓国の国内を分断し、いますぐ五輪参加を反対せよと今すぐ統一をすすめよ」と両論併記というところですが、二つ並べると読者はこれを見てお考えくださいということです。比較的このところは氣をつけて両方事実関係だけを並べています。

9 日の夕食会で無理やり米朝を接触させて座らせようとして失敗したので、文在寅（ムン・ジェイン）政権は外交上の大いなる失敗だったと朝鮮日報（電子版）が批判をしたと書いてあります。同じ新聞ですが、ハンギョレ新聞でアメリカのペンス副大統領が、北朝鮮の金永南・最高人民会議常任委員長を除外して各首脳と握手したことが「無礼」と批判するなど好対照をなしたと書いてあります。北朝鮮がおくった最高のトップを無視して他の人と握手して歩いたことはけしからんではないかということが、少し書いてあります。両論併記ということをしきりにしていますが、結果として印象に残るのは、これだけよく北朝鮮、韓国を載せている。今回の冬季オリンピックでロシアが国としての参加は認められていないので個人としての参加をさせています。ロシアのことを意識的に報道から減らしている。メディアの露出を少なくしている。ロシアに対する配慮とか中国に対する配慮。中国も意識しているようにみえる。そうすると北朝鮮というオンパレードはいったい何を隠しているのかと読めます。日本で北朝鮮、韓国が統一されて喜ぶ組織はどこだろう。そういうことを載せる記事のときに、どこの企業の広告が多いのかという見方をします。電通が大変なことをしましたが、電通はいま復権をしようとしている動きがちょっと気になりますが、北朝鮮関係を扱っている記事はどこが力を入れているか。こういう動きはどこが稼いでいるのか。稼ごうとしているのかという動きをみていかないと、私は新聞の論調は納得できません。

企業をみると「企業決算 最終益 3 割増」（読売新聞 2 月 10 日）とあります。アメリカのトランプ政権による法人税引き下げで、米国に子会社をもつ企業の税負担が減ったことも大きい。トヨタ自動車、日産自動車、ホンダの 3 社だけで、最終利益が約 8500 億円押し上げられた。そうするとトランプさんは何故こんなことをしたのかと内部から色々いわれるでしょうが、アメリカファーストの中身はトランプファーストだと思いますから、アメリカファーストをする動きによって、トランプ一族にどれぐらいの収益がもたらされるかをみておかないと見えてこないと思います。トランプさんがアメリカでも北朝鮮に対抗して大規模なパレードを検討指示したと明らかになったので、大規模な軍事パレードが実現すればブッシュ政権の時は戦勝記念で行われているけれども、今回の実施理由は曖昧で税金の無駄使いだと批判も増えそうだと書いてあります。ここで引っ掛かるのは批判も増えそうだということ。具体的に増えていないのにこういう書きかたをすることです。みんな予測。こういう書きかたの予測は世論の誘導ですから、世論の誘導をするのはどっちの思惑で書いているのと思う。どうしても複眼的に見ないといけない。色々な人たちの関わり合いで記事は出来ています。その時の記事の書きかたは新聞社もしくはそのメディアの基

本な主張で書いているのか、基本的な主張というのは、頭の中で考えているのか、正しいと思って考えて発表しようとしているのか、お金の力によって変わってきているのか。お金の力はどこまで入っているのかと思ひながら私は見えています。お金の流れをみる必要があります。でもお金の流れは新聞には書いていないです。広告料金は、いくらだと書けばよいのにな。

時事評論ばかり話すと他が話せませんね。でも時事評論を話すと「足るを知る」は繋がります。ほどほどで良いという部分は、個人から国家から組織から家庭から、すべて「ほどほど」で良いとしないと、みな例外が出ます。政治家は二枚舌を使って当たり前という。国家もアメリカファーストで他の国が減びても自分の国が残ればよい。これもおかしい。ほどほどではない言いかたをしています。何事にもよらず、みな「足るを知る」というところで、問題が起きたら「足るを知る」あまりがつつきなさるな。ほどほどで、という見直しをすると良いと思います。

恒例の質問

今回は天風先生の本はいつもの本とは違います。難しく堅苦しい文章の本です。『哲人鉄後』という本です。天風先生の本はわかりやすく面白くためになる本が残っています。でも巻頭言は難しい文章です。こんな難しく書かれると分からないなと思います。ベースは難しい文章だったのを柔らかくしていったのだなと思えばよいでしょう。

天風先生流にいけば、一日一日満足した。寝る時に良かったなと思う。

- ・今年に入って良い日が続いている人。
 - ・今年に入って比較的嘘をついていない。
 - ・有難うと言い、有難うと言われる湖とは当たり前で、特に有難うといわれることが多かった。
 - ・昨晚から今日にかけて、健康法を実施した方。
 - ・夕べ寝る時に今日は良かったなと思った方。
 - ・今年に入って自分磨きを一生懸命している方。
 - ・昨夜寝る時に、明日も良かったなと思った人。
- 夕べ寝る時に良かったなと思えれば大正解です。

テーマ「師（本）」

それをふまえて佐藤一斎の「師」をテーマに選びました。佐藤一斎『言志録』がありま

す。その中に「太上は天を師とし、其の次は人を師とし、其の次は経を師とする」という文章があります。自分の人生を周りからも素晴らしいといわれ、自分でもそう思う。自分の人生は悔いがないときは、まず良い本に巡り合っているかどうか。良い本を見つければよいのですが、すべて良い本ばかり選んででも難しい。良い本ばかり探していると、違う本が見えなくなってくる。素晴らしいという話があるけれども…「でも」と首を傾げる本が何冊かあっても良いと思う。それ以外の本も意識して読まれると良いでしょう。

今日はたくさん本を持ってきました。天風先生関係の本で読みたい本があれば、持ってきますので言ってください。世間に出ていない本を持ってこようと思います。でもね、難しくて読めないです。澁澤栄一さんの書いた『論語講義』も難しくて読めない。良い本だといわれても読めない。天風先生の本も難しくて読み難い。安岡正篤先生も話しているものを本にしたものは良いのですが、御自分が書かれたものは難しい。昔の人は難しい字を書きます。

紹介書籍

『哲人哲語』中村天風著 （公財）天風会

『拝啓松下幸之助殿』齊藤周行著 一光社

『血族の王—松下幸之助ナショナルの世紀』岩瀬達哉著 新潮社

今回の紹介書籍について申しますと、終戦直後、人心が荒廃している大変な時代だけれども、日本人は立ち直れると私は確信している。その立ち直れるという理由は縷々書いてあります。その内容は、情熱は伝わってきますが、意味がなかなか伝わりにくいものがあります。まずは情熱を受け止める。そうしますと真剣に知りたくなりますから、読みかたも覚えるようになります。ご覧いただいている本の中では情熱が一番。情熱がなければ本も読む気が起きない。食べたいと思うのも情熱の一種です。寝たいというのも情熱のひとつです。何々したいと思わなければ駄目です。まず何々したいと思うのは情熱です。時々、自分にあるかないかを思い返して確認するのがよいでしょう。これが世のため、人のためということであれば、これは素晴らしい人生になるでしょう。人の物を奪うのは、何々したいといえども、よろしくないですが、世のため人のためと何々したいということであれば良いです。

以上で終わりにいたします。有難うございました。

質疑応答

清水会員一敗戦後、国難だといわれましたが、私は今も国難だと思っています。そのへんのところを手短にお願いします。

今、国難だと思います。先ほど銀行の頭取の話をしましたが、健康長寿の話とともに資産寿命という話が出てきました。銀行からすると紙幣はだんだん扱わない方向にきています。お札やコインが無くなる方向にきています。資産の寿命というのも目前でみて、そのための動きをしている。日本の場合、天風先生が人心荒廃をしたといいましたが、人心荒廃の荒み具合は、終戦直後と現代と比べてみると、現代のほうが荒みかたは酷いと思います。だからもう完全に行き詰っていて、日本はガラガラポンという時期にきていてはいけない時期なのに、ぐずぐずまだ日本の国は国として生きている状況だと思います。天変地異が起こったら、それが引き金になる。経済的なものであれば、この間アメリカは大幅株安で世界うんぬんとありました。もう論調がブラックマンデーの再来だという言いかたでしょう。オリンピックをベースとして、その翌年に落ちるのは当たり前と言われますが、日本は前年も危ないかもと最近いわれています。オリンピックの前か後にとっても酷い状況で日本が落ちていくと思いますが、落ちる時は垂直落下なのか、つるべ落としなのかどちらかは分かりませんが、落ちていく。そういう状態に入ってきていると思います。天風先生が言われた時は、人心荒廃と同時に、素晴らしい日本人があちこちにいるのではないか、だから信じるという言いかたです。

今の時代、素晴らしい人物はあちこちにいるじゃないかといえるけれども、お金の弊害というのでしょうか。ヘドロみたいなもの。これが心の中に巣食っている。住み着きかたが、終戦直後が仮に10ぐらいだと、今は少なくとも5倍から下手したら10倍ぐらい荒んでいると思います。悪くなってきているが、その悪くなりかたが、人間の命の弄びかたが違う。この間、自分の子供をと女性にお金を払って沢山子供をつくらせた人がいましたでしょう。あとクローン人間もいますでしょう。人間の生命というものを考えたときに、今は国難、こんなものではないと思うが、国難に間違いなく1歩踏み入れて、下手したら2〜3歩あるっているところだと思います。

何十年間のあいだには、日本が国難に見舞われて陥って途端の苦しみにあえいでいる状況になっていると思います。だから生きている間にぶつかるから、それなりの対処をしていたほうがよいでしょう。

中村会員一前回の締めくくりに「オリンピックが行われるか、行われぬか」という質問をした時に、だいたい半々でした。非常に深刻な皆さんの回答だと思いました。

前回そうでした。時々そういう質問をするのも良いですね。オリンピックの場合もそう

ですが、他のことでも大きな問題をアンケートなんなりで解いてみると、だいたい結論は五分五分です。怖いです。いつもどっちに転ぶか分からないという結論が出ますが、前に申しあげました「人類は 100 年もつかどうか」という質問を木内顧問が専門の学者にぶつけたところ、答えは半々だったというのがあります。

有難うございました。世の中の誤魔化し誤魔化しが、どこかで行き詰まると思っています。